

令和4年度 事業報告書

本公益財団は、その目的を達成するために本年度においては、次の事業を行った。

【国際的学術研究・情報発信事業】（公1）

I. 調査研究等

特になし

II. 講演会の開催等

- ・一般社会人を対象とする公開学術講演会の実施

国内の研究者を招いて、次のとおりシンポジウムを開催した。

(1) 京都大学経済研究所シンポジウム

「地域から脱炭素社会を築く」

日 時 令和4年11月5日（土）

場 所 京都大学経済研究所北館 N202 講義室より配信（オンライン）

(2) 京都大学経済研究所シンポジウム

「行動経済学を EBPM に活かす：ナッジの作り方」

日 時 令和5年2月11日（土）

場 所 京都ガーデンパレス 葵の間

III. 研究成果の公開等

- ・研究成果の発表及び刊行

特になし。

- ・研究成果の刊行・著書の購入・配布。

特になし。

IV. 図書及び資料の収集と整理等

- ・図書資料、文献資料の収集整備。

特になし。

V. その他、本公益財団の目的を達成するために適当と認められる事業の実施。

特になし。

【研究支援・助成事業】(公2)

R4年度 公募の結果 シンポジウム助成1件

「15th MAER-Net (Meta-Analysis of Economics Research Network) Kyoto Colloquium 2022」

申請者 馬 欣欣 (法政大学経済学部 教授)

備考 R4年10月7日~R4年10月8日

R2年度 公募の結果、シンポジウム助成1件、研究助成2件、計3件

(1) シンポジウム名 → コロナウィルス影響の未実施 R4年度実施予定

「大規模災害の市場へのインパクト：その理論と分析」

申請者 田 園 (龍谷大学経済学部・准教授)

備考：R5年2月頃実施予定

(2) 研究テーマ → コロナウィルス影響の未実施 R4年度実施予定

「アジアにおける国際分業の進展と産業構造の変化」

申請者 小林 拓磨 (松山大学経済学部・准教授)

備考：R4年4月1日~R5年3月31日

(3) 研究テーマ → コロナウィルス影響の未実施 R4年度実施予定

「旧社会主義国間にみられる女性労働の多様性：女性労働のあり方を規定する要因の比較分析」

申請者 里上 三保子 (創価大学経営学部・専任講師)

備考：R4年6月1日~令和5年3月31日